

中学生の「生き方」に関する日中の比較研究

筑波大学心理学系 加藤 隆勝

筑波大学大学院 (博) 心理学研究科 山本 誠一

筑波大学外国人研究者 李 益文

A comparative study on "the way of life" of Japanese and Chinese junior high school students

Takakatsu Kato, Seiichi Yamamoto and Yiwen Li (*Institute of Psychology, University of Tsukuba, Tsukuba 305, Japan*)

This study aimed at comparison of "the way of life" of Japanese and Chinese junior high school students using a questionnaire consisting of four parts: (1) wishes regarding future life (2) reasons for studying (3) the most important person (4) the vision of personal life after 20 years. The subjects were 394 Japanese students and 317 Chinese students. 1) More Japanese students chose "being rich and living luxuriously" than Chinese students did, while more Chinese students chose "being great and living in a respectable manner" than Japanese students did. 2) More Japanese students chose "demands of parents" or "without aim" than Chinese students did, while more Chinese students chose "to be a respectable person", "for national development" than Japanese students did. 3) The largest number of both Japanese and Chinese students chose "Mother". 4) The features of Japanese students' answers were relatively vague and family-/individual-oriented, whereas those of Chinese students' were descriptive and occupation-/society-oriented.

Key words: comparative study, Japanese and Chinese junior high school students, way of life, future life, reasons for studying

青少年の生き方や生活意識全般に関する調査は、総務庁青少年対策本部をはじめ、都道府県教育委員会、各新聞社等によってかなりの数実施されている。また近年は国際比較についての研究も多くなっている。ただし、国際比較は、いわゆる自由主義国が対象となっており、社会主義国についてのデータはほとんどない。たとえば、青少年対策本部の「世界青少年意識調査」(1978)や「国際比較 日本の子供と母親」(1981)においても、また福武書店教育研究所の比較調査(1989)においても中国は含まれていない。中国との比較調査は日本青少年研究所の調査(1989)などに限られている。

このように、青少年に関する多くの調査が実施さ

れているが、われわれの隣国である中国の青少年の実態については、きわめて乏しい知識しか持ち合わせていない。日中の相互理解と友好を促進するためには、両国の青少年の生活と意識の特質を知り、理解し合うことが大切と考えられる。幸い中国青年学院講師李益文が1987年より2年間、青年心理学研究のため外国人研究者として筑波大学に滞在したことにより、加藤、山本、李が共同で研究調査を行うことができた。調査内容は青少年の生活と今後のあり方を規定すると考えられる「生き方」に的を絞る、具体的には「将来の生活についての願い」や「勉強の目的」などによって質問を構成することになった。国際比較の場合は、言語の問題や調査対象の選択

の問題などに制約がとれないやすい。本調査も同様な制約を持つため、結果を一般化するためには、今後のより厳密な検討を必要とするが、探索的研究としての意味は十分にあると思うので、以下にその結果の一部を報告する。

方 法

(1) 調査内容

「生き方」の調査内容は「将来の生活についての願い」「勉強の目的」「自分にとって一番大切な人」「20年後の自分の生活（自由記述）」からなっている。国際比較の場合、翻訳された文がはたして元の文と同義に解釈されているかどうかという問題が常につきまとうので、本調査では、できるかぎり一義的に解釈可能な、簡潔な文で質問を構成するように配慮した。このため、「将来の生活についての願い」については大橋教育研究会の調査項目（加藤1974）、「勉強の目的」については児童青年心理研究会（1981）の調査項目を用いた。

具体的な調査項目は、以下の通りである。

<日本版>

「将来の生活についての願い」の項目

[1] あなたは、大きくなったらどんな生活をしたくと思いますか。つぎのうちで自分の考えにもっとも近いものを2つえらんで、その番号に○（マル）をつけてください。

1. たくさんお金をためて、ゆたかな生活をしたくしたい。
2. 偉くなって、たくさんの人に尊敬される生活をしたくしたい。
3. まずしい人や困っている人のためにつくす生活をしたくしたい。
4. 自分のえらんだしごとに熱中できる生活をしたくしたい。
5. 家族みんなとなかよく、楽しい生活をしたくしたい。
6. わずらわしいことをさけて、静かにくらしたくしたい。
7. 歌手や、テレビや映画のスターのように、はなやかな生活をしたくしたい。
8. 牧師やお坊さんのように神さまや仏さまにつかえる生活をしたくしたい。

「自分にとって一番大切な人」の項目

[2] あなたにとって、いちばん大切な人はだれですか。あてはまる番号に○（マル）をつけなさい。

1. 父
2. 母
3. きょうだい
4. 親類の人（おじ、おば、い

とこ、など)

5. 先生
6. 男の友だち
7. 女の友だち
8. その他の人

「20年後の自分の生活（自由記述）」

[3] いまから20年後になったとします。あなたはどんな生活をしているのでしょうか。20年後の自分を想像して、くわしく書いてください。

「勉強の目的」の項目

[4] あなたは、何のために勉強しているのですか。次のうちから、あてはまるものをいくつでも選んで、その番号に○（マル）をつけなさい。

1. 親が勉強しろというから
2. 先生が勉強しろというから
3. 一流校に入るため
4. よいところに就職するため
5. どこでもよいから上の学校に入るため
6. どこでもよいから就職できるように
7. 将来、よい相手と結婚できるように
8. 人に尊敬される人間になるため
9. 将来の専門知識を得るため
10. 広く教養を身につけるため
11. 本気にしたい学問（勉強）をするため
12. 人のため、社会のためになるから
13. 国（日本）の発展のため
14. 勉強がすきだから
15. みんなが勉強しているからしかたなく
16. 他人に負けたくないから
17. ただ何となく

<中国語版>

一、你长成大人以后，想过什么样的生活呢？请在下面的题目中选择两个最符合你的想法的题目，并在这两题的编号上划圈（0）。

- 1) 想攒很多钱，过富裕的生活。
- 2) 想成为了不起的人，过被别人尊敬的生活。
- 3) 想尽自己的全部力量，帮助贫困和有困难的人。
- 4) 想献身于我自己选择的（即我最热爱的）工作。
- 5) 想和家里的亲人一起，过亲热、愉快的生活。
- 6) 想躲开杂乱的事情，过安安静静的生活。
- 7) 想和有名的歌手、电影明星一样，过红红火火的生活。
- 8) 想和和尚、牧师一样，过为神，为上帝服务的生活。

二、对你來說，最重要的人是誰？請在下面的人們中選擇一個最符合你的想法的人，並在前面的編號上划圈（0）。

- 1) 父親 2) 母親 3) 兄弟姐妹
4) 老師 5) 親戚 6) 男朋友
7) 女朋友 8) 其他人

三、20年之後（比如，你現在十歲，那麼，到三十歲以後），你想怎樣生活呢？請想像一下你20年以後的情況（比如，干什么工作，過什麼地的生活，成為什麼樣的人等等），詳細地，具體地寫在下面。

四、你為了什麼目的而學習？請在下面的題目中選出適合你的想法的條目，並在編號上划圈（0）。（注意：選擇的數目不限）

- 1) 因為父母說：你要學習，所以我只好學習。
- 2) 因為老師說：你要學習，所以我只好學習。
- 3) 為了想進重點學校而學。
- 4) 為了將來進入好職位就業而學。
- 5) 不論將來能進什麼樣的學校，只要能升學就學。
- 6) 不論將來能進什麼樣的單位，只要能就業就學。
- 7) 為了將來找個好對象，並和好對象結婚而學。
- 8) 為了成為受人尊敬的人而學。
- 9) 為了將來獲得專業知識而學。
- 10) 為了提高自己的教養水平而學。
- 11) 為了將來能搞學向而學。
- 12) 為了他人，為了社會而學。
- 13) 為了國家的發展和富裕而學。
- 14) 因為愛學習，所以學習。
- 15) 因為大家都學習，所以我也學習。
- 16) 因為我不想輸給別人而學。
- 17) 我不知道為什麼而學。

(2) 調査対象および調査時期

日本および中国の調査対象者の内訳は、以下の通りであった。

日本：首都圏（東京都・神奈川県）の公立中学校
2年生 計285名（男子160名 女子125名）

富士市の公立中学校

2年生 計109名（男子53名 女子56名）

中国：北京市内の公立中学校（重点校）

1～3年生 計213名（男子93名 女子120名）

西安市内の公立中学校（普通校）

3年生 計104名（男子43名 女子61名）

調査の期間は、1988年9月—1989年1月であった。

ここでいう中国の重点校とは、中国の各分野におけるエリート養成のため優秀な大学への進学をめざす、学力の非常に高い生徒を集めた、いわゆるエリート校にあたる。また中国における北京市および西安市は、日本の首都圏及びそれに準ずる地域とみなされる。

また、以降の分析では、まず日本の首都圏（東京・神奈川）と地方（富山）の中学生の「生き方」の比較を行った後、日本（首都圏）と中国（重点校）、中国（普通校）の中学生の比較を、上記の[1]～[4]の「生き方」に関する4点について行った。（なお、質問紙の各問による有効回答数の違いのため、以降の各分析における分析対象数は異なっている。）

結果と考察

(1) 日本の首都圏と地方の中学生における「生き方」に関する比較

日本の首都圏（東京・神奈川）と地方（富山）の中学生における3つの「生き方」に関する結果はTable 1の通りであった。ここで「将来の生活についての願い」「自分にとって一番大切な人物」「勉強の目的」について、男子・女子・全体別で、それぞれの全項目に関して首都圏と地方の各項目の選択率の比較を行ってみた。 χ^2 検定（各セルの全回答数を100%とした）の結果、ごく一部（「勉強の目的」の男女合計で、項目16、17に首都圏と地方の有意差があった。）を除き、他のすべての項目に有意な差は見られなかった。これより、日本の中学生の場合、「生き方」に関しては、首都圏と地方都市の間にはあまり違いがないものと考えられた。

なお上記の結果より、以降の日中の比較分析では、首都圏の中学生を日本の中学生の代表と考えて検討を行った。

(2) 「将来の生活についての願い」に関する日中比較

日本と中国（重点校、普通校）の中学生の「将来の生活についての願い」について、Table 2およびFig. 1, Fig. 2に示す結果を得た。（Fig.内の項目1～8は、設問[1]「将来の生活についての願い」での選択肢1～8番に相当する。）

これらの結果から、全体的には、日本の中学生も中国の中学生も共通して項目4（自分の選んだ仕事に熱中できる生活をしたい。）と項目5（家族みんなとなかよく、楽しい生活をしたい。）を多く選択していることがわかる。また、日本の中学生が多く選択し、中国の中学生は少なく選択し、両者の差が大きな項目としては、項目1（たくさんお金をためて、

Table 1 日本の首都圏（東京・神奈川）と地方（富山）の中学生における「生き方」に関する比較
(単位%)

「生き方」	男 首都圏	地方	女 首都圏	地方	計 首都圏	地方
「将来の生活」	146名	53名	124名	54名	270名	107名
1	48.63	35.85	37.90	37.04	43.70	36.45
2	6.16	9.43	0.81	0.00	3.70	4.67
3	5.48	5.66	8.06	12.96	6.67	9.35
4	63.70	71.70	60.48	77.78	62.22	74.77
5	54.79	69.81	75.81	66.67	64.44	68.22
6	15.75	5.66	12.90	5.56	14.44	5.61
7	5.48	1.89	3.23	0.00	4.44	0.93
8	0.00	0.00	0.81	0.00	0.37	0.00
「大切な人物」	140名	53名	89名	55名	229名	108名
1	44.29	58.49	33.71	23.64	40.17	40.74
2	47.14	28.30	51.69	45.45	48.91	37.04
3	5.00	5.66	6.74	5.45	5.68	5.56
4	2.14	1.89	1.12	7.27	1.75	4.63
5	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
6	12.86	15.09	1.12	0.00	8.30	7.41
7	3.57	1.89	12.36	14.55	6.99	8.33
8	15.00	9.43	22.49	12.73	17.90	11.11
「勉強の目的」	160名	53名	125名	56名	285名	109名
1	15.00	20.75	3.20	16.07	18.60	18.35
2	1.25	5.66	8.80	8.93	4.56	7.34
3	14.38	32.08	8.00	7.14	11.58	19.27
4	48.75	71.70	32.80	42.86	41.75	56.88
5	24.38	22.64	30.40	17.86	27.02	20.18
6	15.63	9.43	14.40	12.50	15.09	11.01
7	8.13	18.87	17.60	17.86	12.28	18.35
8	12.50	18.87	13.60	7.14	12.98	12.84
9	24.38	26.42	26.40	41.07	25.26	33.94
10	40.00	37.74	43.20	33.93	41.40	35.78
11	12.50	13.21	13.60	16.07	13.33	14.68
12	11.25	20.75	8.80	5.36	10.18	12.84
13	5.63	5.66	4.00	1.79	4.91	3.67
14	1.25	1.89	3.20	0.00	2.11	0.92
15	8.13	11.32	20.00	17.86	13.33	14.68
16	18.75	43.40	23.20	37.50	*20.70	40.37
17	23.75	7.55	38.40	16.07	*30.18	11.93

(* $p < .01$)

Table 2 日本と中国の中学生の「将来の生活についての願い」

(単位%)

項目	男子			女子			計		
	日本	中国(重点校)	中国(普通校)	日本	中国(重点校)	中国(普通校)	日本	中国(重点校)	中国(普通校)
1 たくさんお金をため、豊かな生活	48.6	20.5	7.9	37.9	14.6	9.3	43.7	17.0	8.7
2 えらくなって、人から尊敬される生活	6.2	25.6	44.7	0.8	30.0	27.8	3.7	28.2	34.8
3 貧しい人や困っている人につくす生活	5.5	20.5	10.5	8.1	16.4	13.0	6.7	18.1	12.0
4 自分の選んだ仕事に熱中できる生活	63.7	66.7	79.0	60.5	65.5	70.4	62.7	66.0	73.9
5 家族と仲良く楽しい生活	54.8	39.7	39.5	75.8	45.5	53.7	64.4	43.1	47.1
6 わずらわしいことを避け、静かにくらす	15.8	23.1	15.8	12.9	20.0	13.0	14.4	21.3	14.1
7 歌手やスターのようなはなやかな生活	5.5	3.9	2.6	3.2	7.3	13.0	4.4	5.9	8.7
8 牧師やお坊さんのような神仏につかえる生活	0.0	0.0	0.0	0.8	0.9	0.0	0.4	0.1	0.0
全体数(人)	146	78	38	124	110	54	270	188	92

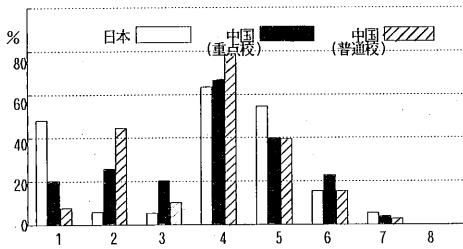


Fig. 1 「将来の生活についての願い」に関する比較 (男子)

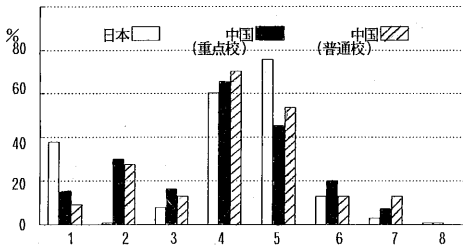


Fig. 2 「将来の生活についての願い」に関する比較 (女子)

豊かな生活をした.)が挙げられる。逆に日本の中学生は少なく、中国の中学生が多く選択している項目として、項目2(えらくなって、たくさんの人に尊敬される生活をした.)が挙げられる。これらの結果から、日本の中学生も中国の中学生もともに、自分の仕事に熱中し、家族と楽しい生活を第一に希望していること、また日本と中国の中学生の違いと

Table 3 日本と中国の中学生の「将来の生活についての願い」(5%以上の被選択ペア) (単位%)

被選択ペア	日本	中国(重点校)	中国(普通校)
1 + 2	0.4	5.1	1.0
1 + 4	16.9	7.1	4.1
1 + 5	20.6	8.6	5.2
2 + 4	0.7	19.3	26.8
2 + 5	2.2	4.1	10.3
3 + 4	1.8	9.1	8.2
3 + 6	0.7	5.1	3.1
4 + 5	35.3	25.4	30.9
4 + 6	5.5	8.6	8.2
5 + 6	3.3	6.1	3.1
全体数(人)	272	197	97

して、日本では人に尊敬されることよりも経済的に豊かな生活のほうを望むのに対して、中国ではむしろ経済的に豊かな生活よりも人から尊敬される生活を選ぶという特徴をもつことが示唆される。

男女差についてはFig. 1, Fig. 2を対照すると、中国ではどの項目もほとんど差がみられないのに比べ、日本では項目5(家族みんなとなかよく、楽しい生活をした.)で、男子より女子が顕著に多く選択していることが読み取れる。これはまだ日本女子に根強く残っている家庭志向を示唆する結果ではなから

Table 4 日本と中国の中学生の「勉強の目的」

(単位%)

項目	男子			女子			計		
	日本	中国(重点校)	中国(普通校)	日本	中国(重点校)	中国(普通校)	日本	中国(重点校)	中国(普通校)
1 親が勉強しろというから	15.0	10.8	0.0	23.2	6.7	3.3	18.6	8.5	1.9
2 先生が勉強しろというから	1.3	3.3	0.0	8.8	1.7	0.0	4.6	2.8	0.0
3 一流校に入るため	14.4	10.8	9.3	8.0	25.8	8.2	11.6	19.3	8.7
4 良いところに就職するため	48.8	22.6	34.9	32.8	35.8	52.5	41.8	30.1	45.9
5 どこでもよいから上の学校へ入るため	24.4	21.5	4.7	30.4	0.8	3.3	27.0	1.4	3.9
6 どこでもよいから就職できるように	15.6	1.1	14.0	14.4	0.8	1.6	15.1	0.9	6.7
7 将来、よい相手と結婚できるように	8.1	6.5	9.3	17.6	3.3	1.6	12.3	4.7	4.8
8 人に尊敬される人間になるため	12.5	35.5	37.2	13.6	35.0	41.0	13.0	35.2	39.4
9 将来の専門知識を得るため	24.4	37.6	30.2	26.4	28.3	41.0	25.3	32.4	36.5
10 広く教養を身につけるため	40.0	52.7	55.8	43.2	60.8	62.3	41.4	57.3	59.6
11 本当にしたい学問(勉強)をするため	12.5	28.0	20.9	13.6	19.2	4.9	13.3	23.0	12.5
12 人のため、社会のためになるから	1.3	25.8	16.3	8.8	13.3	27.9	10.2	18.8	23.1
13 国(日本・中国)の発展のため	5.6	41.9	55.8	4.0	35.8	65.6	4.9	38.5	61.5
14 勉強が好きだから	1.3	8.6	4.7	3.2	8.3	3.3	2.1	8.5	3.9
15 みんなが勉強しているからしかたなく	8.1	9.7	0.0	20.0	8.33	4.9	13.3	8.9	2.9
16 他人に負けたくないから	18.8	33.3	25.3	23.2	35.8	32.8	20.7	37.7	29.8
17 ただ何となく	23.8	5.4	2.3	38.4	5.0	1.6	30.2	5.2	1.9
全体数(人)	160	93	43	125	120	61	285	213	104

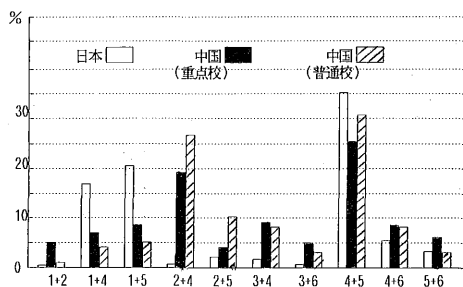


Fig. 3 「将来の生活についての願い」に関する比較 (5%以上の被選択ペア)

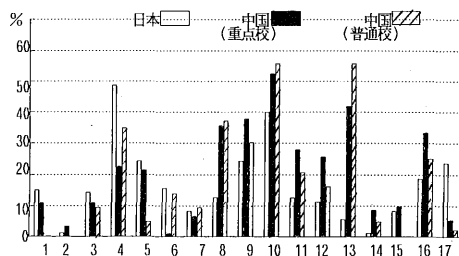


Fig. 4 「勉強の目的」に関する比較 (男子)

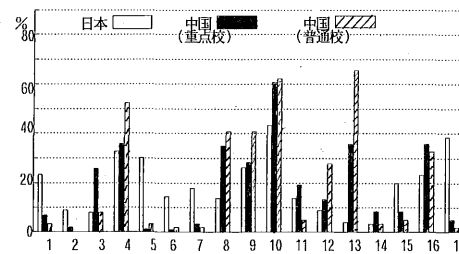


Fig. 5 「勉強の目的」に関する比較 (女子)

うか。

なお「将来の生活についての願い」は、実際には選択肢から2つを選ばせていることから、さらに選択のペアという観点から、全体数の5%以上から選択されたペア(以下では被選択ペアと呼ぶ)についての分析も行った。これも全体のほか、男子、女子についての分析検討も行ったが、5%以上の被選択ペアの種類もほぼ同じで、また特筆すべき性差も見

Table 5 日本と中国の中学生の「自分にとって一番大切な人」

(単位%)

項目	男子			女子			計		
	日本	中国 (重点校)	中国 (普通校)	日本	中国 (重点校)	中国 (普通校)	日本	中国 (重点校)	中国 (普通校)
1 父	44.3	28.0	27.9	33.7	25.8	26.2	40.2	26.8	26.2
2 母	47.1	33.3	34.9	51.7	50.8	65.6	48.9	43.2	52.9
3 きょうだい	5.0	10.8	4.7	6.7	5.8	1.6	5.7	8.0	2.9
4 親類の人	2.1	6.5	11.6	1.1	4.2	6.6	1.8	5.2	8.7
5 先生	0.0	1.1	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	1.9	0.0
6 男の友だち	12.9	7.5	7.0	1.1	6.7	0.0	8.3	7.0	2.9
7 女の友だち	3.6	7.5	16.3	12.4	11.7	4.9	7.0	9.9	9.6
8 その他の人	15.0	18.3	11.6	22.5	9.2	8.2	17.9	13.2	9.6
全体数 (人)	140	93	43	89	120	61	229	213	104

られなかったため、今回は全体の結果のみFig. 3, Table 3に示した。

Fig. 3を見ると、日本と中国の中学生に共通して選ばれているペアは、4 + 5で、この結果は上述の結果と一致するものであった。また日本の中学生のほうが顕著に多く選択しているペアは、1 + 4と1 + 5で、逆に中国の中学生のほうが顕著に多く選択しているペアは、2 + 4であった。この結果も、上述の結果を支持するものであったといえよう。

(3) 「勉強の目的」に関する日中比較

日本と中国（重点校、普通校）の中学生の「勉強の目的」について、Table 4およびFig. 4, Fig. 5に示す結果を得た。（Fig.内の項目1～17は、設問[4]「勉強の目的」での選択肢1～17番に相当する。）

これらの結果より、全体的に日本と中国の中学生に共通して多く選択されている「勉強の目的」項目としては、項目4（よいところに就職する）、項目9（将来の専門知識を得る）、項目10（広く教養を身につける）、項目16（他人に負たくないから）などが挙げられよう。また、日本の中学生が多く選択し、中国の中学生は少なく、両者の差が大きな選択項目としては、項目1（親が勉強しろというから）、項目5（どこでもよいから上の学校に入るため）、項目17（ただ何となく）などが読み取れよう。その逆に、日本の中学生は少なく、しかも中国の中学生の選択数が多く、両者の差が大きな選択項目には、項目8（人に尊敬される人間になるため）、項目13（国の発展のため）などがあつた。

男子についてはFig. 4を見ると、日本の男子中学生が中国の男子中学生に比べて、明らかに項目4（よいところに就職する）を多く選択していることがわかる。女子についてはFig. 5を見ると、日本の女子中学生は中国に比べて、項目7（将来、よい相手と結

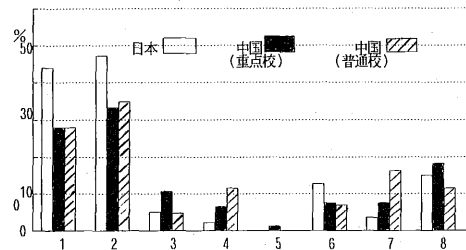


Fig. 6 「自分にとって一番大切な人」に関する比較 (男子)

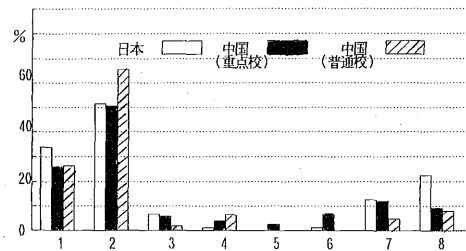


Fig. 7 「自分にとって一番大切な人」に関する比較 (女子)

婚するため)を多く選択している傾向が読みとれる。

以上の結果を概括すると、勉強に関しては、良くも悪くも、日本の中学生は目標が曖昧で主体性に欠け、受け身的な感じであるのに対し、中国の中学生は、かなり目標が明確で、主体的、意欲的であり、かつ国の発展のためという目的意識が強いことが推察される。

(4) 「自分にとって一番大切な人」に関する日中比較

日本と中国（重点校、普通校）の中学生の「自分にとって一番大切な人」について、Table 5および

Table 6 「20年後の自分の生活」の仕事に関する日中比較

カテゴリー	度数	なんらかの仕事をしている	サラリーマン以外の仕事	サラリーマン*	仕事に関する記述無し	空白・わからない
日本 中学男子	(66)	18.2	21.2	18.2	36.4	6.1
中国重点校 中学男子	(69)	1.4	84.1	2.9	8.7	2.9
中国普通校 中学男子	(46)	28.3	50.0	2.8	10.1	8.7
日本 中学女子	(56)	32.1	35.7	3.6	28.6	0.0
中国重点校 中学女子	(46)	10.9	74.0	2.2	13.0	0.0
中国普通校 中学女子	(75)	20.0	69.3	1.3	8.0	1.3
日本 中学全体	(122)	24.6	27.9	11.5	32.8	3.3
中国重点校 中学全体	(115)	5.2	80.0	2.6	10.4	1.7
中国普通校 中学全体	(121)	23.1	62.0	1.7	9.1	4.1

* 日本ではサラリーマン、中国では公務員と記述したもの

Fig. 6, Fig. 7に示す結果を得た。(Fig.内の項目1～8は、設問[2]「自分にとって一番大切な人」での選択肢1～8番に相当する。)

これらの結果を見ると、全体では日本の中学生も中国の中学生も、ともに項目1(父)と項目2(母)を一番大切な人として最も多く選択していることが読みとれる。これは日本における従来の調査結果等(NHK世論調査部 1984)とも一致している。

またFig. 6を見ると、日本の男子中学生は中国の男子中学生よりも、やや多く項目1(父)・項目2(母)を選択する傾向がうかがわれる。女子についてはFig. 7より、日本と中国の女子中学生がともに項目2(母)を選択する割合が高く、項目1(父)のほぼ2倍に相当することが共通した特徴である。この傾向は、日中に共通する、男子との大きな差異といえるものである。

なお、項目8(その他の人)については、本調査では具体的な記述を求めていないため、詳細な分析はできなかった。ただここで日本の女子中学生の選択数が他に比較してかなり多いという点が注目されるが、これは身の回り以外の人に対する関心がふえていることをうかがわせるものであろう。

(5) 「20年後の自分の生活(自由記述)」に関する日中比較

ここでは、設問[3]番における、20年後の自分の生活像に関する個々の中学生の自由記述の結果を、具体的な仕事の視点(具体的な仕事を記述しているか否か)、社会志向-個人志向の視点(国家・社会への献身か、個人の自己実現か)、家庭志向-仕事志向の視点(より家庭的か仕事重視か)、生活の水準(質素、ふつう、裕福のどれか)の視点、という4つの

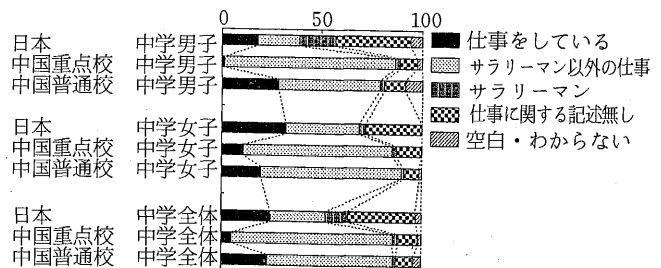


Fig. 8 「20年後の自分の生活」の仕事に関する日中比較

視点に立って、それぞれの視点で自由記述の結果を分類し、以下のような分析検討を行った。(なお実際の分類作業にあたっては、心理学専攻者2名による検討を経ている。)

① 「20年後の自分の生活」における具体的な仕事の内容に関する日中比較

Table 6, Fig. 8が分類整理した結果である。Fig. 8を見ると、全体では日本の中学生は「サラリーマン」という記述や「仕事に関する記述無し」の者が多く、逆に中国の中学生の方は、「サラリーマン(中国の場合は、一般の公務員を指す)」という記述以外の仕事つまり、より具体的な職業を記述しているものが多いことが読み取れる。また、日本の女子中学生の方が、男子中学生より「仕事に関する記述無し」が少ないこと、つまり女子中学生の方が、仕事に関する記述が多いという結果は、最近の女性の社会進出と関連する結果と思われる。この意味で、日本の女子中学生は、中国の女子中学生と同様の方向へ変化していることが推察される。

Table 6-a 「20年後の自分の生活」の具体的職業一覧

日	本	中	国
ブルトレの運転手		研究者 (科学技術・理学・科学家など)	
地球の征服		(医学者)	
一般航海士		(生物学・動物学)	
絵本作家		(数学)	
サーフショップ		(天文学)	
店舗経営・自営業		(考古学)	
銀行員		(文学)	
飲食業 (ラーメン屋, コック, 喫茶店, アイスクリームショップ, ステーキ屋)		(内容記載なし)	
薬剤師		エンジニア (科学技術者)	
看護婦		医者	
弁護士 (法律関係)		教師	
社長		政治家	
星に関係した仕事		倒爺 (ヤミの商人)	
獣医・動物関係		国際貿易	
先生 (小, 英語か社会)		テレビ関係 (アナウンサーなど)	
レーサー, エンジニア		社長・企業経営	
テレビ局		警察官	
漫画家, アニメーター		弁護士	
プロ野球, プロスポーツ		労働者	
美容師		解放軍・軍官	
テレビタレント, 歌手, 俳優, 女優		コンピューター関係	
映画脚本家		音楽・芸術 (芸術とのみ記載)	
保母, 幼稚園の先生		(音楽)	
デザイナー		(画家)	
声優		(書家)	
球場アナウンサー		建築家	
ペンション経営		新聞の編集・記者	
バレエの先生		通訳・翻訳 (英語など)	
ピアニスト		運転手 (タクシー・トラック)	
		探検家	
		慈善事業家 (福祉)	
		芸能人 (映画スター, 歌手など)	
		服飾デザイナー	
		美容師	
		サービス業・店員	
		体育選手 (サッカーの監督など)	
		文学者・作家	
		旅行会社	
		タイピスト	
		外交官	

Table 6-aは、日本と中国の中学生が実際に記述した、具体的職業の内容を一覧表にまとめたものである。これを見ると、中国では科学技術に関する研究や、国家社会の発展に結びついていく職業に対する関心が多く、日本では高度経済社会における個人的

な夢や関心を記述しているものが多いことが特徴と思われる。さらに自由記述文の長さについては、日本の中では、首都圏の中学生に比べて、富山の中学生の方が記述が長く、内容的に豊富なものも多く見られた。特に首都圏の中学生は、記述のないものも

Table 7 「20年後の自分の生活」の社会一人志向に関する日中比較

(%)

カテゴリー	度数	社会志向	両面志向	個人志向	どちらも記述無し	分類不能
日本 中学男子	(65)	1.5	0.0	52.3	40.0	6.2
中国重点校 中学男子	(60)	16.7	21.7	46.7	6.7	8.3
中国普通校 中学男子	(43)	16.3	25.6	44.2	4.6	9.3
日本 中学女子	(56)	1.8	3.6	76.8	17.8	0.0
中国重点校 中学女子	(40)	15.0	27.5	50.0	2.5	5.0
中国普通校 中学女子	(61)	14.7	14.7	64.0	3.3	3.3
日本 中学全体	(121)	1.6	1.6	63.6	29.8	3.3
中国重点校 中学全体	(100)	16.0	24.0	48.0	5.0	7.0
中国普通校 中学全体	(104)	15.4	19.2	55.8	3.8	5.8

見られ、記述してあっても、きわめて短く簡単に、記述に対する熱意の感じられないもの（中には投げやりとも思われるものも僅かながらあった）が多いことが特徴的であった。それに比べて中国の中学生では、記述も長く豊富で、将来への理想を熱意をもって語るものが多いことがきわだった特徴として見られた。

以下に、さらに仕事に関する記述のなかで、より代表的と思われる事例のいくつかを列挙する。

〈東京 中2男子〉

『多分、ふつうの会社につとめてふつうの仕事をして、ふつうのなやみがある一ぱん的なサラリーマンだと思う。』

『好きな仕事をしたのしく平和にくらしたい。』

『自然はかいがされていない所にペンションを経営して平和にくらしている。』

〈東京 中2女子〉

『どこかの会社に就職していると思う。』

『結こんをして、平和にくらしているか、キャリアウーマンで、銀行員をしている。』

『小学校の先生になって、みんなの心がわかってあげられる、いい先生になりたい。授業を工夫して、生徒たちをひきこめる授業ができるようになりたい。』

〈北京 中2男子〉

『20年後、私は記者、あるいは新聞の編集者になりたいです。国民のために真理を求めたいです。円満、幸福な生活をしたいです。自分の知識が深く、すべての困難が克服できます。当然、給料、ボーナスなどが中等、あるいは中等以上の水準でも満足します。しかし、へんな金を拒否します。精神的な生活については、充実、高

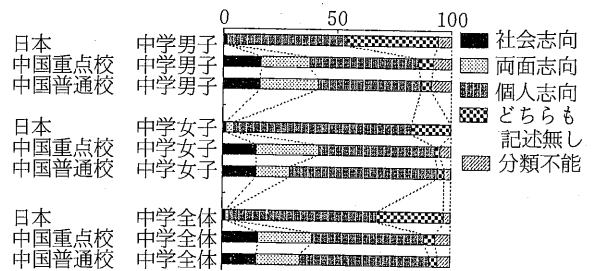


Fig. 9 「20年後の自分の生活」の社会一人志向に関する日中比較

尚で俗ばなれしています。大きな官員、あるいは高級の役人を担当したくない。これが多数の大眾を離れさせるからです。自己の仕事の中にいくつかの成功と失敗を希望しています。いつまでも真実のことを話したいです。』

〈北京 中1男子〉

『私は科学研究をして学位を獲得したいです。ゆたかな、安定した、静かな生活をしています。人々に尊敬される人になります。』

〈西安 中3男子〉

『20年後、私は静かな生活ではなく医者になりたいです。国の医学のため貢献したい。そして祖国に先進国を超えさせます。たとえば、日本、アメリカ、など。』

〈北京 中2女子〉

『私はエンジニアになって、科学技術の面で業績をあげたいです。あるいは世界で特許を獲得したいです。しかし人々に注目されたくないんです。私は世界中で有名な大学へ研修に行きたいです。』

Table 8 「20年後の自分の生活」の家庭一仕事志向に関する日中比較

カテゴリー	度数	家庭志向	仕事志向	混合	関連する記述無し
日本 中学男子	(61)	45.9	26.2	19.7	8.2
中国重点校 中学男子	(58)	8.6	70.7	20.7	0.0
日本 中学女子	(56)	48.2	23.2	26.8	1.8
中国重点校 中学女子	(40)	12.5	50.0	22.5	15.0
日本 中学全体	(117)	47.0	24.8	23.1	5.1
中国重点校 中学全体	(98)	10.2	62.2	21.4	6.1

精神、物質とも満足したいです。仕事と生活の両方が互いに邪魔しないことを希望します。』

(注：エンジニアとは、研究者に近い技術開発研究員に相当する職称)

『20年後、私は女軍官になって忙しくて有意義な生活をしたいです。知識があり、能力があり、人々に尊敬される幹部になりたいです。いまから自分の知識教養を高めて、言うこともズバズバ言うしやることもバリバリやる性格を培います。世界の有名人のように人前に顔を出して、人前に出しています。』

『30代頃に静かで楽な生活をしたいです。家族となかよく楽しく暮らしたいです。20才、30才の時、何でもやってみたいです。40才になれば安定した仕事をしたいです。例えば、作家、警察長なんかしています。国、社会の発展のために自分の力を貢献するだけでなく、給料も高いし生活もゆたかで楽です。有名な文人義士になって、人々に尊敬されたいです。もしチャンスがあれば、私はたくさんの金を稼いで世界中をまわりたいです。(もちろん、多くの外国語ができます。たとえば、英語、日本語、ドイツ語、ロシア語、フランス語など)世界での奇跡と創造を全部見てみたいです。才能見識が広く、各地の風土人情を知って多くの友達を持っている人になりたいです。』

②「20年後の自分の生活」における社会一人志向に関する日中比較

Table 7, Fig. 9が分類整理した結果である。Fig. 9を見ると、全体では、日本の中学生ではほとんど記述されていない、「社会志向」や社会志向を半分含む「両面志向」が、中国では半数近くの中学生で記述されていることがわかる。また明らかに、「どちらも記述無し」が日本の中学生で多いこともこの結果の

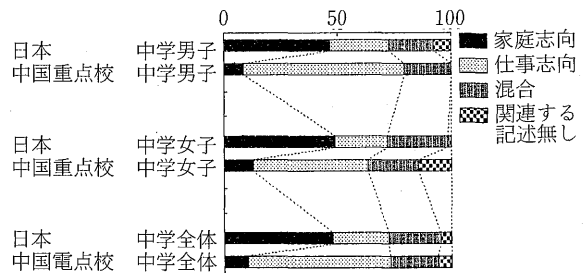


Fig. 10 「20年後の自分の生活」の家庭一仕事志向に関する日中比較

特徴といえよう。

さらに、以下で社会志向一人志向に関連する記述の中から、より代表的と思われる事例のいくつかを列挙する。

〈東京 中2男子〉

『本当に、人のためになることや、支えになれるようなことのできる生活。』

『プロサーファーになり、お金をためて海の近くに家を買って、サーフィンのおみせをひらき、もっと金をためてせかいじゅうにおみせをつくる!! (ゆめ)』

〈東京 中2女子〉

『自分のえらんだしごとをしているか、たのしくくらしたい。』

『赤貧にあえぎながら弁護士をしている。』

〈北京 中1男子〉

『20年後、国家の指導者になりたいです。自分の全部の力で、国民に服務している人になります。私はまず高級幹部の中の党員幹部をまじめに整理します。そして、上から下にいたる整理をします。または私は真に知識人の地位を重視し、知識人の待遇を高めてあげます。わが国の科学技術水準を高めつづけて先進国と競争します。』

実力で世界の平和を維持します。祖国をさらに繁盛させ、富裕にさせます。私は将来きつと気にあう人をさがしてきます。生活がゆたかかどうか関心をもちたくないけれども普通であれば、十分だと思えます。私は博学で清貧で高尚で道徳的な、比較的完備している人になりたいと思えます。』

<北京 中2男子>

『ゆたかで安定していて、人々に尊敬される生活をしたいです。できるだけ困っている人を助けてあげたいです。20年後、人才が重視され、才能が十分に発揮できる部門で研究の仕事をしたいです。仕事の業績をあげてやさしい人になりたいです。いつも民族の利益をわすれずに、国の発展のために献身します。』

<北京 中1女子>

『私は一生懸命に好きな芸術の仕事を探し求めます。わずらわしいことを避けて、楽な生活をしたいです。世界に旅行に行きます。平日に小説をつくっているけれども、一回も発表しないのです。私は自分の目で、世界を観察して自分と対話します。私は自然の風景に陶酔し、桃花源の生活をし、陶淵明のような生活をしています。音楽を聞き、名画を鑑賞し、夕陽を見、月や星を見ながら、芸術の中にとけ込みます。少しも妨げがなく、いつまでも一人で生活しています。』

『私は慈善事業をしたいです。全部の力と時間で老人、児童、身体障害者を助けます。この理想を実現しなければならないと思えます。独立な、自主的な生活をしています。有名でなくとも、他人に有益な人になります。』

③「20年後の自分の生活」における家庭志向—仕事志向に関する日中比較

Table 8, Fig. 10が分類整理した結果である。Fig. 10を見ると全体では、日本の中学生では「家庭志向」の者が約半数（47%）を占め、これが第一位なのに対して、中国では、62%の者が「仕事志向」の記述を行っていることがわかる。これは日本と中国の中学生の差異を端的に示すものであると思われる。特にこの視点では、日本も中国も、性差はほとんど見られず、日本と中国の中学生の差が明瞭に現れている。

さらに、以下で家庭志向—仕事志向に関連する記述の中から、より代表的と思われる事例のいくつかを列挙する。

<東京 中2男子>

『会社に就職して、つまもいて、子どももいて、マイホームがある。』

『普通のサラリーマンで家族みんなとなかよく、楽しいゆたかな生活をしていると思う。』

『スポーツをしながらたのしい家ぞくを築きたい。』

<東京 中2女子>

『自分のやりたい仕事に熱中して、自分の目標をもって満足な生活をしている。趣味などを楽しみながら…。』

『10才と8才の女の子と男の子がいて、小さな2階建ての家に住んでいたい。でかい猫（おす）を一匹かいたい。子供が小学校に行っている間に掃除、せんたく、買い物に行く。男の子はサッカークラブに入れて、女の子はスイミングクラブに入れる。練習の日にはきちんと見に行く。休みの日には遊園地に子供と遊びに行つて、自分もいっしょに遊ぶ。』

<東京 中2女子>

『ごく普通の男の人と結婚して子供も2人ぐらいいる。保母の仕事にもついている。なんのトラブルもなく毎日平和に幸せに生活している。』

『結こんしてて、中学校の近くに住む。やさしいママさんになる！中学生と小学5年生の子供がいて、自分の選んだ仕事につく。しあわせいっぱいの子供を育てる。家はわりと大きくて2〜3がいで。庭が大きく犬と猫（おす）を2ひきずつかつている。子供が学校から帰ってきたらおやつを出してあげる。』

<北京 中2男子>

『生物を研究するつもりです。あるいは天体物理学を研究したいです。もちろん、いい生活をしたいです。もし、研究の仕事をするなら、私は独身生活をしたいです。これは研究の邪魔をしないからです。そして国のためもっと多くの仕事をします。私の生活はたくさんのお金が必要じゃなくて足りていれば満足だと思えます。私は平凡な人になって苦難が多いことを希望します。私の性格は孤独になればなるほどよいと思っています。そして他人が私に会うと、すぐに嫌だなと思われる方がよいと思います。これを実現することは難しいかもしれないけれども、もし、私が生物学者になれば原始の森林に行つて原始人のような生活をしたいです。動物の中に生活して、研究し、探索したい！』

<北京 中2女子>

『20年後、私は大きなことをしたいです。人々に尊敬されるような生活をしたいです。家庭の中

Table 9 「20年後の自分の生活」の生活水準に関する日中比較

カテゴリー	度数	裕福な生活	普通の生活	質素な生活	関連記述無し・不明
日本 中学男子	(61)	18.0	31.1	0.0	50.8
中国重点校 中学男子	(58)	32.8	22.4	1.7	43.1
中国普通校 中学男子	(40)	17.5	7.5	0.0	75.0
日本 中学女子	(56)	17.9	14.3	1.8	66.1
中国重点校 中学女子	(40)	30.0	22.5	2.5	45.0
中国普通校 中学女子	(60)	20.0	5.0	0.0	75.0
日本 中学全体	(117)	17.9	23.1	0.9	58.1
中国重点校 中学全体	(98)	31.0	22.4	2.0	43.9
中国普通校 中学全体	(100)	19.0	6.0	0.0	75.0

はなかよく楽しいです。私は国家の高級リーダーまたは国の総理とか主席などになりたいです。これは野心ではないと考えています。人間として、勇気がなければ、理想的な人とは言えないでしょう。国家には有用で国民のために利益を図る人になります。国家と国民のために全ての能力を発揮したい。大きな困難にあっても、私は克服できます。もし、あとで本当に国家のリーダーになれば必ずうまくやります。私の部門を模範になるようにしたいです。私は仕事のために全部を犠牲にします。』

〈西安 中3女子〉

『20年後の生活が今日の想像と違うかもしれませんが結婚していることはもちろんだと思います。誰も同じでしょう。20年後、英語の先生になるでしょう。もし私が教師になれば、熱中して学生にたくさんの知識を教えてあげます。20年後、私はもう結婚して、家庭の主婦として夫婦関係と兄弟関係と親子関係などをうまく処理したいです。よき妻になりたいです。そして隣人を助けてあげます。子供に勤勉に勉強することを教えてあげます。』

④「20年後の自分の生活」における生活水準に関する日中比較

Fig. 11, Table 9が分類整理した結果である。この結果を見ると、中国の重点校（いわゆるエリート校）が、他に比べ明らかに「裕福な生活」を多く選択していること、また中国重点校は、中国普通校よりも生活の水準に関する記述の割合が多いこと、さらに「普通の生活」に関連する記述をしたものが、日本だけでなく中国重点校でもほぼ同様にいること

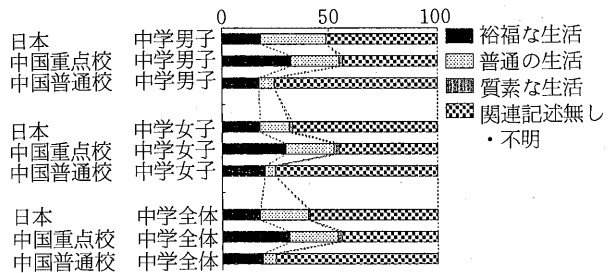


Fig. 11 「20年後の自分の生活」の生活水準に関する日中比較

が読み取れる。中国の重点校に「裕福な生活」が多いことや、日本の中学生に「普通の生活」に関連する記述が多いことは理解しやすいが、中国重点校の中学生に普通校よりも「普通の生活」に関連する記述が多く見られたことは興味深いことと思われる。

さらに、以下で生活の水準に関連する記述の中から、より代表的と思われる事例のいくつかを挙げる。

〈東京 中2男子〉

『普通の生活をしていたい。』

『よくあるパターン』

『宝くじがあたって外国に滞在し、いい暮らしをしている。山の中で静かな所。』

〈東京 中2女子〉

『ふつうの暮らしをしている。自分のお店をもっている。』

『大きい病院で働く薬ざい師でお金持ちになる。』

『ふつうの暮らしをしている。自分のお店をもっている。』

〈北京 中1男子〉

要 約

『大人になると私は電子関係の仕事をするつもりです。普通の生活をし、普通の人をしています。』
 <北京 中2男子>

『20年後金持ちになって、楽な生活をしたいです。多くの友達を持っている人になりたいです。その時、4DKの家と、現代化の電気、家具がそろっています。生活が楽しいですね！私はまず、部隊に入って丈夫な体に鍛えています。そして、都市に帰ってから官員の地位をねらいます。官員にならないと“倒爷”（法律違反の商売をすること）になります。』

<西安 中3男子>

『20年後、ごく普通の人になります。平凡な生活をしています。社会に小さい力を貢献したいです。』

<北京 中2女子>

『科学研究者になって難しい仕事をしたいです。有名になりたくなくて静かな生活をしたいです。私はたくさんの金は要らなくて、日常生活用品と本と器具が買えれば満足します。私は自利なくて、人々を助けます。私は自分の科学研究の成果を祖国に捧げます。しかし、私は自分の名前をのこすことなく、報酬も要らないです。私は詩を書いています。しかし、その詩を発表しないです。両親に孝行しています。私はえらい人になりたくないです。私はたくさんの花を植えていきたいです。』

<西安 中3女子>

『20年後、私は知識を持っている労働者になります。えらい人にはなれないと思います。それを希望しないからです。静かに勉強をし、仕事をし、生活をしたいです。そして、祖国を愛し、家族を愛し、郷里を愛したいです。私は貧乏な共産黨員になりたくないです。将来の祖国と同じようにゆたかで、人々に尊敬されます。』

以上(1)~(5)の結果・考察を総合すると、日本の中学生は、中には高い理想を持ち、社会に献身的で積極的な「生き方」を記述しているものも少なからず見られたが、やはり全体としては、目標が曖昧で主体性に欠け、受け身的で、いわゆる小市民的な感じであり、まさに「ふつうの生活を、ただなんとなく」生きている、とでも言えそうな記述が特徴的であった。それと対照的に、中国の中学生は、きわめて目標が明確で、主体的、意欲的であり、かつ国の発展のためという目的意識が強いことが推察された。

本研究のねらいは、日本と中国の現代中学生の現状を、「生き方」という観点から、両者の比較検討という形で明らかにすることであった。

そこで、日本（首都圏・富山）と中国（北京市・西安市）の公立中学生（計711名）に対し、「生き方」に関する4つの設問（「将来の生活についての願い」・「勉強の目的」・「大切な人物」・「20年後の自分の生活」）で構成された質問紙調査が実施された。

調査の結果、上記の4つの観点において以下のような諸点が明らかとなった。

「将来の生活についての願い」に関して、日中の中学生に共通して多く選択された項目として、『自分の選んだ仕事に熱中できる生活をしたい。』・『家族みんなとなかよく、楽しい生活をしたい。』の2項目、また日本の方が顕著に多い項目として、『たくさんお金をためて、豊かな生活をしたい。』、逆に中国のほうに顕著に多い項目として、『えらくなくて、たくさんの人に尊敬される生活をしたい。』の項目が明らかとなった。

「勉強の目的」に関しては、日中の中学生に共通して多く選択された項目として、『よいところに就職する』・『広く教養を身につける』がある。また日本の方が顕著に多い項目として、『親が勉強しろというから』・『どこでもよいから上の学校に入るため』・『ただ何となく』があり、逆に中国の方が顕著に多い項目として、『人に尊敬される人間になるため』・『国の発展のため』があることなどが明らかとなった。

「自分にとって一番大切な人」に関しては、日中に共通して父・母が大多数であることが、顕著な特徴であった。

自由記述による「20年後の自分の生活」では、①具体的な仕事の内容に関しては、日本では「サラリーマン」や「仕事に関する記述無し」の者が多く、逆に中国の方は、具体的な職業を記述しているものが多い、②社会一人志向に関しては、中国の方が社会志向が顕著に多い、③家庭志向一仕事志向に関しては、日本はほぼ半数が家庭志向、中国はほぼ3分の2が仕事志向、④生活の水準に関しては、日中ともに「裕福な生活」とともに「普通の生活」に関連する記述がかなり多いこと、等が明らかとなった。

以上の結果を総合して、全体として日本の中学生の「生き方」は、将来の生活像が不明瞭で、小市民的のりに比べ、中国の中学生の「生き方」は、社会の発展を担うものとしての意欲や希望が強く、将来の生活像も明確であること等が考察された。

付 記

調査の実施にあたり次の多くの方々にご協力を頂いた。大田区立大森第十中学校関根和夫、川崎市立稲田中学校小沼謙一郎、富山市立南部中学校小川悦朗の各先生、また中国人民大学附属中学校、北京工業大学附属中学校、西安市育才中学校、同市陝西鋼鉄研究所附属中学校の諸先生、そして調査対象となった中学生の皆さんには心より謝意を表す。また本研究をまとめるにあたり、横浜国立大学高木秀明、中国青年学院張溯、筑波大学芸術研究科張浦華、同大心理学研究科佐藤有耕、同大人間学類学生（当時）榎田礼子、袴田初子の諸氏にも多大なるご協力を頂いた。厚くお礼申し上げます。

引 用 文 献

福武書店教育研究所 1989 国際比較調査「7つの

都市の子どもたち」モノグラフ・小学生ナウ Vol. 8-10

- △ 加藤隆勝 1974 現代っ子—その生活と価値意識
大日本図書
- NHK世論調査部編 1984 中学生・高校生の意識
日本放送出版協会
- 日本青少年研究所 1989 日本・米国・中国 中学生の基本パネル調査
- 総理府青少年対策本部編 1978 世界の青年との比較から見た日本の青年 大蔵省印刷局
- 総理府青少年対策本部 1981 国際比較 日本の子供と母親 大蔵省印刷局
- △ 児童青年心理研究会 1981 現代青少年の人間関係
伊藤忠記念財団調査研究報告書 6 伊藤忠記念財団

—1989. 9. 30受稿—